

第6学年「図画工作」学習指導案

授業者 堀井 武彦

2月15日（土） 2階アトリエ 10:00～10:40 （話し合い11:00～11:45）

1 題材名 アートカレンダー（鑑賞）

2 題材について

本学年の子どもたちは、これまで題材名「アートカレンダー」を3回（5年時1回+6年時2回）経験してきた。具体的な活動内容は以下の通りである。

1年間の内、4ヶ月（4つの月）のカレンダーを作ります。図A～Dのイメージと組み合わせが相応しいと思われる月と、その組み合わせを選んだ理由（形や色、描かれているものの特ちょうを示す）を簡単に文章にまとめましょう。

㊟著作権の関係で画像を掲載できないことをご了承ください。

本題材は、子どもたち各々の季節感と美術作品のイメージを直感で対照させること、美術作品と月令との組み合わせを判断した理由を、形や色の特色を引用した説明文で表す鑑賞学習である。視覚情報のイメージを言語で表現することは高度な活動であるが、カレンダーという馴染みのある表現型式を取り入れて着想をもちやすくする手立てとした。一方で、月令と対照する季節感は、生活実感や経験値に左右されるだけでなく、昨今の気候変動により、共有可能な季節感が不鮮明な状況なので、「未知未完の対象をわかっていくアートメタ認知」を発揮する創造的鑑賞活動の生成を目指してきた。

本時では、本学年が低学年より経験してきた「共同推敲」の手法を取り入れ、月令イメージと親和性がある美術作品の選択理由を共通理解が得られる表現になるよう高めていく場を設定した。これまで鑑賞活動は、「直感にたよる活動に収斂してよいのか?」、「鑑賞力より言語能力が反映するのでは?」等の二項対立構造の指摘が主流であったので、本時の活動を通して、主観と客観、言語と非言語を編み込んだ相互生成の創造を目指したいと考えた。これによって、手続きによる情報共有ではなく、本部会が着目する“テクスチャ（Texture）”を維持した学びの“あみ目”が見えてくることを想定した。

3 学習指導計画（1時間目／全2時間）

- 第1次 2月にふさわしいアートカードをファミリー単位で選び、その理由を各自がまとめる。 …5分
- 第2次 選択理由をファミリー内で紹介し合い、ミニ共同推敲を行う …8分
- 第3次 学級全体で共同推敲を行い、振り返ったり、他者との違いに気付いたりする。 …27分

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- ・月令イメージとアートカード（美術作品）の組み合わせに関する言語表現を共感的に受けとめ、自分との違いやよさを反映させた共同推敲に取り組む。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 2月のカレンダーにふさわしいアートカードをファミリー単位で選び、選んだ理由を形や色の特色に着目して各自でまとめ、クラスルームに投稿する。	・アートカードを選ぶ際の対話で出されたキーワードを拾うことを促す。
2. 投稿した説明文を各自が発表し、ミニ共同推敲を行い、ファミリーの代表を選ぶ。	・ここの共同推敲は対話を中心に行い、代表を選ぶ目途をつけながら行うことを目指す。
3. ファミリー代表の説明文を発表し、学級全体で共同推敲を行う。	
4. 本時で発表出来なかったファミリーは次時に発表し、余った時間で任意の月に関する説明文または各自の説明文の推敲を行う。	・次時は、振り返りまたは応用の場とすることも伝える。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・共同推敲の活動を通して、形や色の特色に基づいた鑑賞の能力の発揮を促すことができたか？